

# オンライン資格確認システムの動向

## ～ランニングコストは要チェックを～

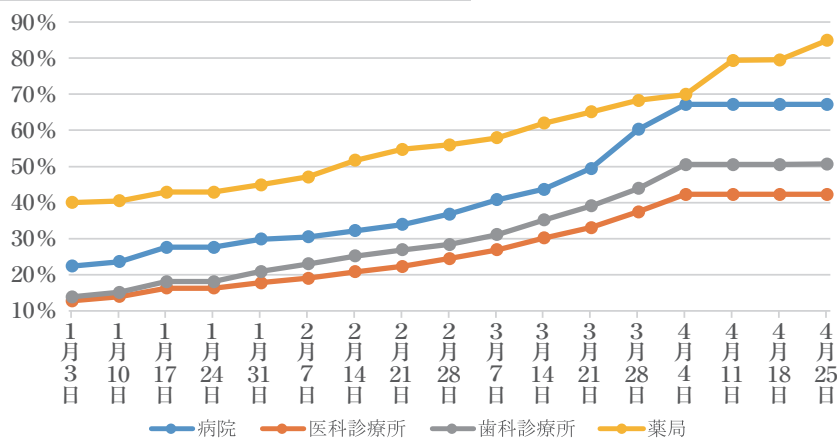
### 顔認証付きカードリーダーの申込 全額特例補助終了で今後は横ばいか

今年1～4月までの茨城県内の顔認証付きカードリーダー申込率は図のとおり。3月末までの期限付き補助金上限引き上げで、駆け込みの申込みが増えたが、4月からは従来の補助額（病院が190.3～210.1万円の1/2、診療所が42.9万円の3/4）に戻り、病院・診療所の申込は横ばいとなっている。

今後のシステム導入の是非は、補助金の締切が一つの目安とな

る。補助金を受けるには令和5年3月31日までに補助対象事業を完了させ、同年6月30日までに補助金を申請することが必要。期限までには約2年の期間がある。今年3月に本格運用が予定されていたオンライン資格確認システムは、各種データのエラーにより今年10月に本格運用先送りとなった。システムが正常に作動し、運用が軌道に乗る時期を見極められたい。

図 カードリーダー申込率 茨城県の状況



### 補助金の活用ができるのは「初期費用」のみ 保守料などランニングコストは医療機関負担

オンライン資格確認システムを導入するためには、マイナンバーカード読取・資格確認のソフトならびに機器導入、ネットワーク環境整備、レセコンや電子カルテ等の既存システムの改修が必要になる。対応するシステムベンダー等では、初期費用をパック料金で用意しているケースが多い。表は実際に各医療機関（診療所）にシステムベンダー等から示されている初期費用の例だが、各社とも厚労省が示している基

準事業費（42.9万円）に近い金額を提示している。しかし、示された初期費用だけでオンライン資格確認システムが半永久的に稼働するわけではなく、システムの維持費用が必要となる。各社のランニングコスト（年間）だが、A社はサービス利用料・端末保守で約7万円、B社は回線を新設する場合、保守料を含めて約10万円、既存回線を利用する場合は保守料のみで約3万円、C社は接続・保守料として約5

万円、D社は保守料が約3万円となっている。その他、一定の年数が経過することで求められる費用もある。ある事業者では、オンライン

資格確認対応ソフト保守として、4年目以降に年間約2.5万円の保守料が必要となる。

表 オンライン資格確認システム導入費用（税込）

A社	B社	C社	D社
418,000円	282,920円	429,000円	414,700円

### カードリーダーも一定期間経過後は買い替えか

カードリーダーは導入から5年間は保守料無料となっているものが多いが、5年経過後は保守が終了する機種がある。その場合、故障時に買い替えか有償修理が必要となる。買い替えの場合、1台の費用は約12万円。メーカーの中に

は6年目から年間約3万円の保守料で保守継続を行うものや、納品後1年半経過時より年間約3万円の保守料で故障対応するところもある。システム導入時には、ランニングコストを確認する必要がある。

### 単独の健康保険証交付はとりやめ、マイナンバーカードと一体化を 経済財政諮問会議

4月13日の経済財政諮問会議では、民間議員からマイナンバーカード普及に向け、健保組合で健康保険証の交付を取りやめ、マイナンバーカードとの一体化を実現するよう提言があった。

会議後に西村経済再生担当相は「平井デジタル担当相の方でもこれを受け止めてもらい、民間議員提案の内容で具体的なことを詰めていく」と述べている。

### 理事会 だより 新型コロナワクチンの副反応

- 4月22日に開催された茨城県保険医協会第12回理事会では、ワクチン接種後の副反応について情報交換が交わされた。その内容からポイントを列記する。
- ・2回目接種後、翌日は強い倦怠感があった。当院では10人接種を受けたが、そのうち2人は39℃の発熱があり、解熱鎮痛消炎剤を服用させた。可能であれば、2回目接種翌日は診療をセーブした方が良いかもしれない。
  - ・1回目接種後の方が倦怠感が強かった。
  - ・接種後の反応は熱や倦怠感が中心で、アナフィラキシーショックは1例もなかった。
  - ・100人単位での接種では2回目接種後に副反応の強い人が多い。39℃の発熱、腋窩リンパ節が腫れたケースもあった。
  - ・1回目の接種後、45分～1時間経って全身に蕁麻疹が現れたケースがあった。